

大草谷津田いきものの里 自然観察会

タネの旅立ち

松本美千代(千葉市)

日 時:2020年11月1日(日) 10時30分~12時 天気:晴れ

参 加 者:20名(大人11名、子ども9名)

担当指導員:岡田敬子 遠藤登志子 松本美千代、補助指導員:木下順二 芳我めぐみ

コロナ禍での2回目の観察会だった。毎年この時期に、大草タネの旅立ちをやっているが、区民まつりなどあちこちでイベントが開かれていたためか、観察会の参加者が少なかった。今回、同じテーマでも9月から始まった観察会が雨で中止になったことや野外活動ということで安心感があったためか、大勢の参加者がいた。

詰所脇のベンチに、葉っぱや殻斗も一緒に色々などんぐり(シラカシ・コナラ・クヌギ・アカガシ・スダジイ・クリ・アラカシ・マテバシイ・ウバメガシ)を置いて見てもらった。

2週間前の下見では、広場のシラカシもコナラのドングリも落ちていなかつたが朝の下見ではシラカシがたくさん地面の上で見られた。落ちたらすぐ根が出るコナラは下見に来る途中で拾ったものを湿らせたモスの上に置いておき、根が出た様子が見えるようコナラの樹下に置いた。説明を忘れないように観察する植物に印をつけた。水路脇に流すジュズダマ、オオモミジの脇に飛ばすタネを置いて準備をした。

環境保全課で申込者を家族ごと3班に分けてくれていたが、混雑が無いように受付を済ませた家族順にグループになって出発した。

弾ける種、カタバミやゲンノショウコは実際に触ってもらった。ツリフネソウの種が弾ける様は大人もビックリして何度も触っていた。グループが鉢合わせしないようにとあぜ道に入ったがそれも楽しい経験のようだった。就学前の虫好き男の子が網と虫かごを持ってきていた。親御さんが今日のテーマをしっかりと集中させ、クリアしてから虫探しを許可していた姿に感心した。アリ地獄からウスバカゲロウの幼虫を取り出しその姿を見てもらったら虫好きの子が『ああいうところに幼虫がいるんだ』と言っていた。アマチャヅルの葉を食べているトホシテントウがいたので背中の模様がハートだったらラッキーですよという話をしたところ、観察容器を見ていた方がハートだと喜んでいた。参加者の1人が甲虫を見つけてくれた。コクワガタの雌かと思ったら胸に細長い瘤みがあった。コカブトムシ雌のようだった。コカブトムシだと思いますが、写真を撮ったので後で調べて違っていたら次の観察会で連絡します。ということにした。



補助指導員2名が検温や手指消毒などのコロナ対策やグループ分け、付き添いなどを下さったので観察会がスムーズに出来て良かった。感謝。参加者が楽しかつたと帰っていくのを見てこの時期だからこそやって良かったと思った。